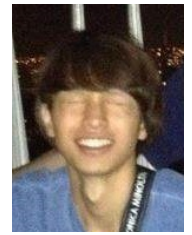


御嶽からみる村落空間

— 宗教的空間を中心とする村落空間の構成について —

Keywords

御嶽 宗教的空間 儀礼集団ムトゥ
字名 儀礼



AK11083 堤 光平

1. はじめに

1.1 研究背景・目的

世界には様々な信仰や宗教があり、その儀礼空間が住居や村落に関わっている地域がある。日本では、沖縄県がその代表的な地域のひとつである。沖縄県では、「御嶽(うたき)」と呼ばれる聖域が村落に存在し、人が立ち入れない空間となっていることが知られている。また、祭祀集団が集う儀礼小屋は、健康祈願や豊作祈願など、人々の生活に密接に関わる行事を行う宗教的空間である。そこで、筆者は宮古群島の池間島に関しても「御嶽」を中心として村落が構成され、島民の生活にもそうした構成が影響を及ぼしていると考えた。

本研究では、池間島の空間がどのように構成されているのかという視点から研究する。沖縄独特の神観念や宗教観念が、村落空間や住居とどのような関わりがあるかに着目する。

1.2 研究方法

本研究では、2014年7月29日から8月10日までの14日間にわたり、沖縄県宮古島市池間島において、村落の実測、住居内および住居周辺の実測、各住居の住民へのインタビュー調査を実施した。実測件数は36件、インタビュー件数は37件である。村落図の実測は、住宅地図から作成した白地図を元に島内を歩いて回り、地図上に細かい情報を落とし込んでいった。

2. 調査地の概要

2.1 池間島の概要

池間島は、沖縄本島の西南に位置している大小8つの島嶼群からなる宮古群島の一つである。図1を見ると、池間島は、宮古本島の北端、狩俣突端より少し北方の洋上にあり、周囲を隆起サンゴ礁によって囲まれている島である。面積は2.83km²、周囲は10.1kmで人口は670人、世帯数は360世帯である。

池間島は3つの断層ブロックを形成し、地塊間の低地は入り江および農耕地となっている。丘陵地が多く、地味はやせ、朝昼の地温差が5～7度あり農耕条件は悪い。一方で、水産資源の豊富な海でカツオ漁業が盛んになり、1960年代には人口が2000人を超える島であった。

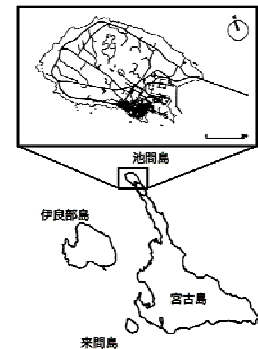


図1 池間島配置図

2.2 池間島の村落

図2、図7からわかるように、人家は南側の一角に密集して建てられている。村落の東側の半分が字池間、西側の半分が字前里に分かれ、細い道が境界となっている。

明治の頃は、字前里には現在ほどの家はなく、分家や他村からの移住者などで村落が広がっていった。

文献及びインタビューから、漁業が盛んになると他村からの移住者が増え、村落が広がっていったことがわかる。さらに、南方の遠洋漁業の儲けで、住居を建て直す人が多く、現在の住居はほとんどがその際に建てられた。

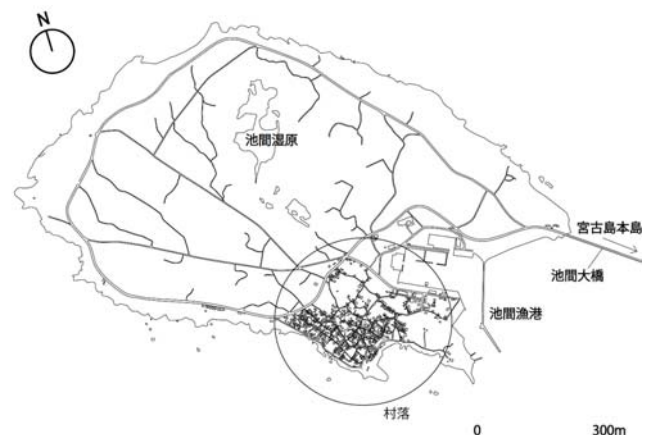


図2 池間島全体図

3. 御嶽(うたき)

3.1 御嶽とは

琉球の古くからある村落には、森や小高い丘、岬などに御嶽と呼ばれる神聖な場所がある。そこには、村人の

保護者で、村を支配している神が祀られているとされる。御嶽の形態はさまざまだが、御神体や建造物が無いのが本来のかたちで、線香をあげ、米や塩などを供えて祈願をする。御嶽には女性しか立ち入ることができない。村落創成は御嶽をもとにしてはじめられていたといわれており、村落の人々の日常には必要不可欠であった。

3.2 池間島の御嶽

池間島には、オハルズ御嶽がある。池間の住民は「オハルズ」を土地の守護霊と信じ、御嶽には、祖霊神であるウラセリクタメナウ(訪来神)が祀られている。写真1はオハルズ御嶽の第1の門である。第2の門まで100メートルほどの傾斜した道があり、それをのぼると第3の門がある。第3の門より先は神願いの広場である。約100坪の祭祀場があり、中央に海から運んだ白砂を盛っている。右手に夜籠り家、中央に砂を盛って140個程の香炉をおいたところがあり、イビと称している。中央正面の石垣から奥には入ってはならないが、ミャークヅツの日のみ島民が入るのは許される。中には門が2つあり、右側が神、左側が霊の出入口である。池間島の御嶽は人の住む空間のなかに組み込まれているが、神聖な場所であり、村落空間と区別されている。池間島での御嶽の形態は、大体が他地域と同じだが、イビが他と異なり、白砂を円形状に盛り上げているのが特徴的である。籠り屋は、儀礼を行うアシアゲに相当する。この仮小屋は、現在、鉄筋コンクリートで建てられている。籠り屋の前にある5つの丸は、女性祭祀ツカサンマの座る目印である。



写真1 オハルズ御嶽門

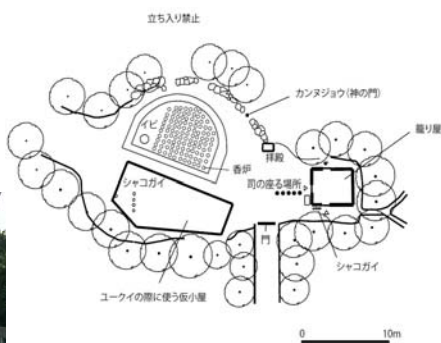


図3 オハルズ御嶽図面

3.3 里御嶽

里御嶽には、里神が祀られている。里神は池間の部落を分けている小地域の神で14あり、人々は、地域ごとの里神を信仰している。オハルズ御嶽が本家とするならば、里神はその分家にあたり、里神同士は兄弟関係といえる。神願いの中でも、豊漁に関する願いがあるが、それらはカツオ漁業の発展とともに作りあげられたものである。宇前里側のほとんどの里神は漂着死体が祭神であり、図4のマジャヤマは明治の大津波の時の漂着死体を祀っている。このように、健康祈願、豊作祈願、安全祈願などを行う場が、人々の生活空間と近い距離にあることも、宗教的空間の重要性を示している。



図4 里御嶽の配置

4. 儀礼

4.1 儀礼集団ムトゥ

池間島にはムトゥという4つの集団がある。ムトゥは始祖集団であり、池間に住む人ならいずれかのムトゥに所属している。始祖集団であるため、理論上は血縁関係があるが、現在はそういった意識はなく、儀礼集団として機能している。ミャークヅツという年中行事の時に、各ムトゥ同士が集まる。ムトゥは4つあり、アギマスムトゥ、マジャムトゥ、マイヌヤムトゥ、マイザトムトゥがある。マエザトムトゥだけが後に他村からの移住者で構成された。図5からわかるように、池間島では、昔から各ムトゥ同士が集まって居住する特徴がみられる。ムトゥは池間島における村建てと関係している。

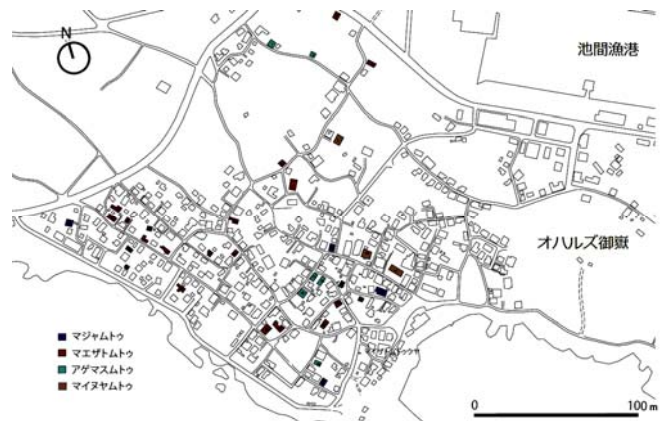


図5 ムトゥの家の分布図

4.2 儀礼小屋ムトゥウヤ

池間島の4つの各ムトゥには、儀礼小屋「ムトゥウヤ」がある。ムトゥウヤの東側にはムトゥ・ヌ・イスと呼ばれる石があり、ムトゥウヤに入るときは、必ず石の方に手を合わせ拝む。

4.3 ミャークヅツ

ミャークヅツは、年一回、旧暦の8、9月の甲午の日から3日間行われる、豊作、豊漁祈願を行う池間島最大の年中行事である。各ムトゥウヤに、55歳以上の男性が集まり、マスムイというムトゥ集団への加入を承認する儀

礼を行う。夕方になると、池間島公民館の前に集まり、クイチャー(歌って踊ること)を行う。この儀礼は、現在も行われている。

5. 宗教的空間を中心とする村落空間

5.1 字名にみる宗教性

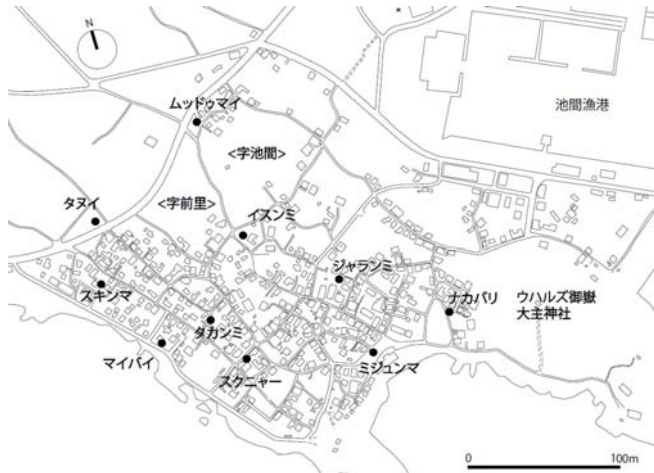


図6 池間島の字名

池間島には、地形の形や特徴から字名がつけられている場所がある。一般に、字名のような古い地名は、その場所の特徴にもとづいてつけられる。字名は、行政的な意味を持たない。一方で、昔の人々がその土地をどのようにとらえていたのか示す可能性がある。また、字名は、地域区分をあらわすものでもあり、昔は班・ハカヤと呼ばれていた。中には、宗教的要素をもった名前があり、2

つの事例を下記に記述する。

- ・スクニャーのスクには小高い所という意味がある。地形を見てみると、スクニャーのあたりは岡状台地である。また、海の神や荒人とかかわる地名といわれることがある。

- ・御浜は、池間大橋を渡ってすぐ右手にあるビーチ帯のことをいう。御浜の「御」は、「迎える、治める」の意味があり、神を迎えるはたらきがある。日が昇る島の東側に位置している御浜は、ティンダウガナス(天道神)を拝み迎える聖地である。また、龍宮神の上陸地でもある。最高神であるティンダウガナスは、太陽光照(ヒーティー)の神格化である。

池間島では、宗教的観念は村落の字名に使われるほど、重要とされている。また、字名がそのまま御嶽の名前に使われることもある。

5.2 御嶽やムトゥウヤなどの宗教的空間の特徴や配置の特徴

村落はオハルズ御嶽の近くに構成されている。この南側にある村落以外の場所には、人は住んでいない。かつて、人々はオハルズ御嶽のすぐ近くに住んでいたとされる。オハルズ御嶽が、村落の東側にあるのは、太陽が昇ってくる方が大事とされているからではないか。

インタビュー調査で、日常でオハルズ御嶽やムトゥウヤに行く一本道を使う人はいなかった。島民が、神聖な空間と人間が住む空間を区別していることを示す。



図7 村落図

5.3 儀礼行為に表れる宗教性

池間島には、様々な儀礼が存在するが、中でも、ミヤークヅツとユークイは特別なものと人々は認識している。

ミヤークヅツは、現在も年一度行われている。島の人だけでなく、島外に住んでいるムトゥに所属している人やその親戚は、この期間は島にやってくる。ミヤークヅツでムトゥウヤに集まると、島民同士の会話が主となるが、健康であるかの確認や近況報告を神聖な場所で行うことが大切なのである。ムトゥウヤに集まった後、夕方になるとクイチャーを踊るが、はじまる前にはオハルズ御嶽に向かってお辞儀をする。人々は、常にオハルズ御嶽を意識しているのである。

ユークイは、神女集団が島中を回るが、はじめとおわりに祈願する場所は、オハルズ御嶽であるため、この儀礼はオハルズ御嶽が中心となっているといえる。また、豊作の神、豊漁の神、航海安全の神、出産の神、水の神、酒の神など、人々の生活と関わりをもった神が祀られている場所を巡礼場所になっている。島に祀られている神の中でも、このユークイで祀られている神は、島民にとって重要とされているのである。

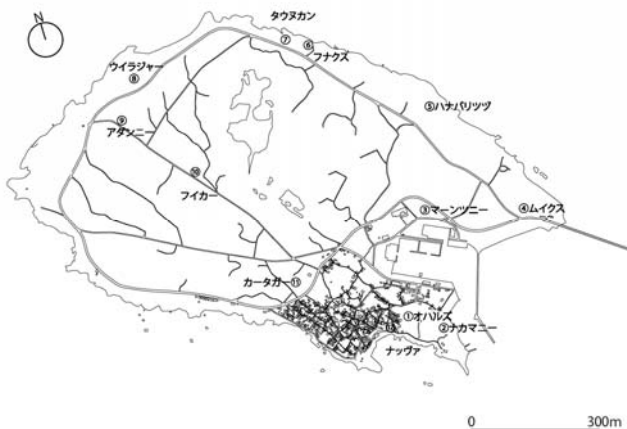


図8 ユークイの巡礼箇所

6. おわりに

本研究は、沖縄県池間島において、宗教的空間である御嶽が村落空間にどのような影響を及ぼしているかに着目した。

元々、池間島は農村であったため、農業に関する儀礼や神が存在していたが、カツオ漁の発展とともに漁業に関する儀礼を行うようになった。島民は、時代の変化に順応しながら、儀礼を行ってきた。そういった儀礼は、健康祈願、豊作祈願、大漁祈願、安産祈願、航海安全の祈願など人々の生活に関わる内容である。また、カツオ漁に関する神願いは、豊漁の祈願だけでなく、舟のエンジンや魚群を探すための祈願があり、漁師たちは、少しでも漁が上手くいくようにするために、神頼みしていたのである。

図9は池間島の村落の構成図である。オハルズ御嶽やム

トゥウヤを神聖な空間とし、居住区域と空間を分けていることを示す。また、図10は、居住区域は、いくつかの里(ハカヤ)を構成していて、その中心は里御嶽であること、里は、信仰地域ごとの里御嶽を中心に成り立っていることを示している。

池間島の地名は、場所の特徴からつけられるものが多く、その中には、宗教性をもった名前もある。人々は、生活空間にも宗教的な要素を持たせている。

字名にあらわれる宗教性、儀礼行為、オハルズ御嶽やムトゥウヤの配置、また、今でも島民がオハルズ御嶽を信仰し、心の拠り所としていることから考えると、池間島は、御嶽を中心として組織され、宗教的観念が人々の生活に深く影響を及ぼしているといえると結論づけられる。



図9 村落構成図

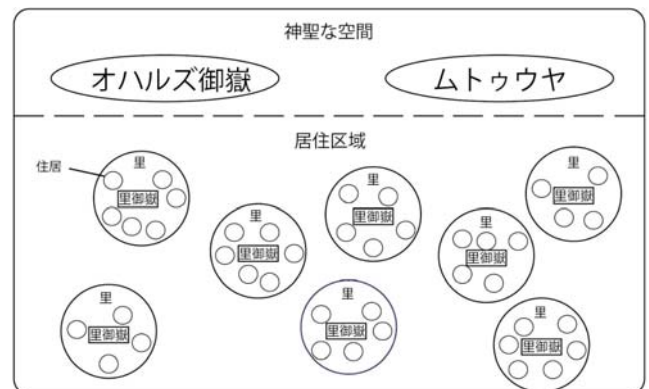


図10 村落構成モデル図

参考文献

- 1) 伊良波盛夫「わが池間島」池間郷土研究所 2011年11月
- 2) 伊良波盛夫「新編 池間島の地名 池間島の聖地」池間郷土研究所 2010年10月
- 3) 笠原政治「池間民族考」風響社 2008年10月
- 4) 野口武徳「池間民俗詩」未来社 1972年7月
- 5) 浦山隆一「南西諸島の聖域における建築的空間と形態」南島聖域研究会 1987年2月
- 6) 富田宏 「次の時代の漁村計画論 東日本大震災 連続まちづくり懇話会 第8回資料」株式会社漁村計画